

特55

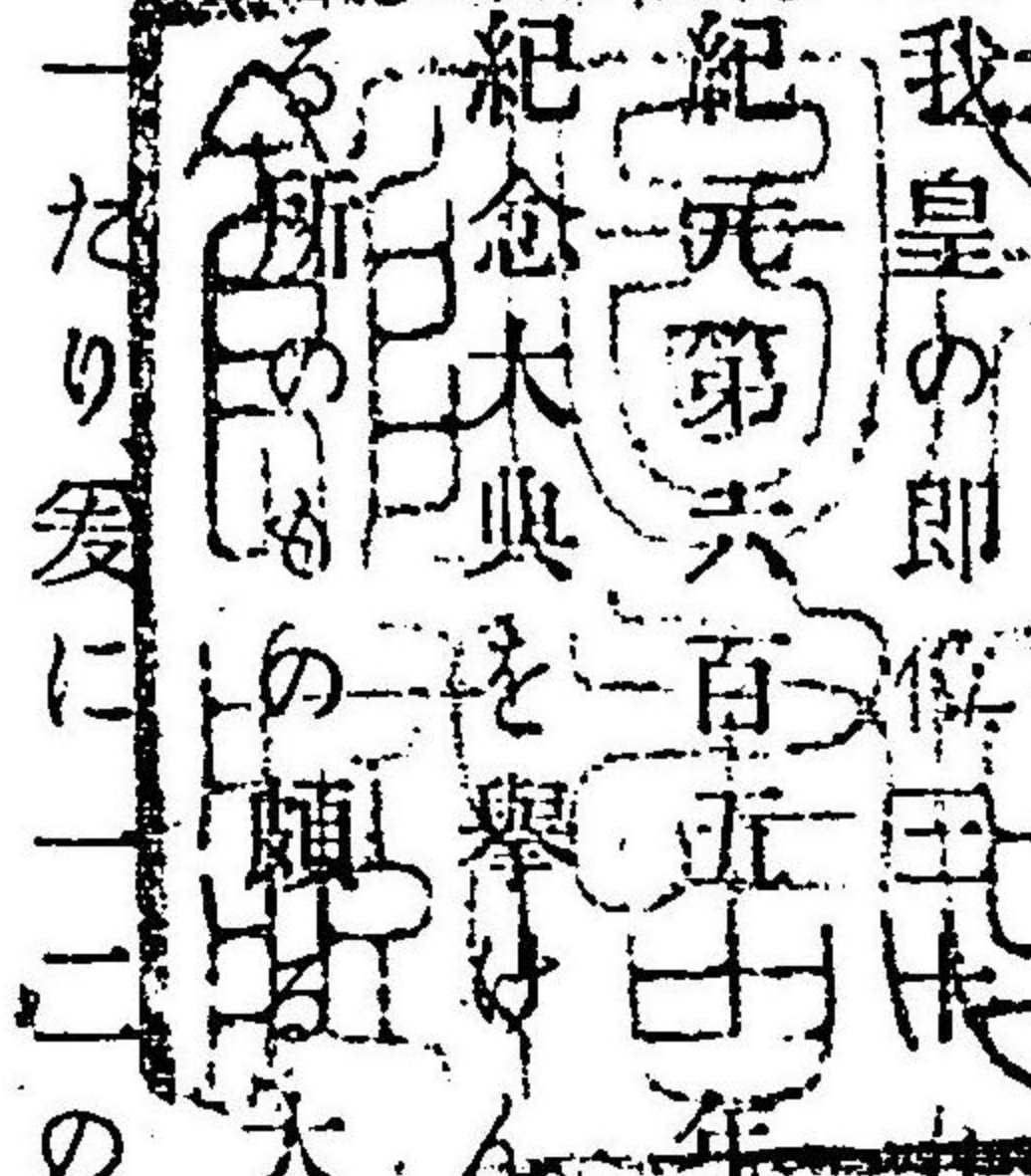
264

日蓮大士御文章

聖語鈔

開宗第六百五
十年紀念本

聖語鈔施本の縁起



我皇の即位は、明治元年四月二十八日は實に我祖の建宗
 紀元第六百五十年に相丁れり同門の緇素胥謨り將に
 紀念大典を擧げんとす蓋し紀念の事業として經營す
 る所のもの願はる大にして且多と施本布教の如き亦其
 一たり爰に一二の同志と共に我祖の遺文に就て其自
 信其抱負其慈悲等の高厚博大にして信敬すべき聖語
 若くは其敬神忠君愛國憂世等の大義名分若くは其父
 子夫婦師弟等の彝倫常經皆以て世道人心に益ある千
 古不磨の金言を抜鈔し題して聖語鈔と稱す之を刊行
 と以て廣く世間に頒たんと欲す遺文の浩漭にして聖



聖

語

明治六年六月五日

語の巨多なる其鈔すへきもの何ぞ限らん今唯其文章の簡にして其義意の解し易きものを鈔し其長篇大作は斷章取義に依りて之を録せり若し夫れ本化別頭の教義立妙靈活の境界に造詣せんと欲せば特に遺文全集を拜覽して研鑽する所なかるべからず

明治三十五年四月

川合妙鏡識

聖語鈔

國依法而昌。法因人而貴。國亡人滅。佛誰可崇。法誰可信哉。先祈國家須立佛法。

(立正安國論)

汝早改信仰寸心速歸實乘之一善。然則三界皆佛國也。佛國其衰哉。十方悉寶王也。寶土何壞哉。國無衰微。土無破壞。身是安全。心是禪定。此詞此言。可信可樂矣。(立正安國論)

天ノ三光ニ身ヲアタ、メ。地ノ五穀ニ神ヲ養フコト。皆是レ國王ノ恩也。其上へ今度法華經ヲ信シ。今度生死ヲ離ルベキ。國主ニ値奉レリ。争カ少分ノ怨ニ依テ。オロカニ思ヒ奉ルベキ。(四恩鈔)

我レ釋尊ノ遺法ヲマナヒ。佛法ニ肩ヲ入レシヨリ。己來。知恩ヲ以テ最トシ。報恩ヲモテ前トス。世ニ四恩アリ。知之人倫トナツケ。不知畜生トス。子父母ノ後世ヲ助ケ。國家ノ恩徳ヲ報セント。思ガ故ニ身命ヲ捨ル事。敢テ

他事ニアラズ。唯知恩ヲ旨トスル計也。先汝目ヲフサギ心ヲ靜メテ道理ヲ思ヘ。我ハ善道ヲ知ナガラ。親ト主トノ惡道ニカ、ランヲ諫メザランヤ。又愚人狂ヒ酔テ毒ヲ服センヲ。我レ知ナガラ。是ヨイマシメザランヤ。其ノ如ク法門ノ道理ヲ存シテ。火血刀ノ苦ヲ知ナガラ。爭カ恩ヲ蒙ル人ノ惡道ニオチン事ヲ歎カザランヤ。身ヲモ投ケ命ヲモ捨ツベシ。諫メテモアキタラズ。歎キテモ限リナシ。今生ニ眼ヲ合スル苦ミ猶定レテ悲ム。況ヤ悠悠タル冥途ノ悲ミ。豈ニ不痛哉。恐レテモ恐ルベキハ後世慎ラモ慎ムベキハ來世也。而ルヲ是非ヲ論セズ。親ノ命ニ隨ヒ。邪正ヲ簡バズ。主ノ仰セニ順ハント云事。愚痴ノ前ニハ忠孝ニ似タレドモ。賢人ノ意ニハ不忠不孝。是ニ過ベカラズ。(聖愚問答抄)

日蓮法華經御使也。經曰。則如來使。如來所遣行如來事。三世諸佛事者。法華經也。此由方方奉驚之。集一所有御評議。可預御報候。所詮拋萬祈。召合諸宗於御前。決佛法邪正。給淵底長松未知。良匠之誤。闇中錦衣。未見愚人之失於

三國佛法分別者在殿前。所謂阿闍世陳隋桓武是也。敢而非日蓮私曲。只偏懷大忠。故爲身不申之。爲神爲君爲國。爲一切衆生。所令言上也。恐々謹言。文永五年戊辰十月十一日 日蓮 (與北條時宗書)

生レテ己來。衣食ノタクヒヨリ初テ皆是國主ノ恩ヲ得テアル者ナレハ。現世安穩後生善處ト祈リ奉ルベシ。(上野殿御消息)

日蓮貧道ノ身ト生レテ。父母ノ孝養心ニタラズ。國恩ヲ報ズベキカナシ。今度願ヲ法華經ニ奉テ。其功德ヲ父毎ニ回向シ。其餘ヲハ弟子檀那等ニハフクベシ。(種々振舞書)

闔諍堅固ノ時ハ。餘經ノ白法ハ。險シ失セテ。法華經ノ大良藥ヲ以テ。此大難ヲハ治スベシト見エタリ。法華經ヲ以テ國土ヲ祈ラハ。上一人ヨリ下萬民ニ至マデ。悉ク悅ビ榮ヘ給ベキ鎮護國家ノ大白法也。(法華初心成佛抄)

日本國ハイミシキ國ニテ候。神ヲ敬ヒ佛ヲ崇ブ國ナリ。(治部房御返事)

日蓮ハ日本ノ大難ヲ拂ヒ國ヲ持ベキ日本國ノ柱也。余ヲ失フナラバ日本國ノ柱ヲ倒也。(波木井殿御書)

日本國ニ代始テヨリ己ニ謀叛ノ者二十六人。第一ハ大山ノ王子。第二ハ大石ノ小丸。乃至第二十五人ハ賴朝。第二十六人ハ義時也。○我ハ謀叛ヲ發サネドモ。謀叛ノ者ヲ知テ國主ニモ申サネバ。同罪ハ彼ノ謀叛ノ者ノ如シ。○日蓮此大ナル失ヲ兼テ見シ故ニ。與同罪ノ失ヲ爲脱佛ノ呵責ヲ思故。爲知恩報恩。國ノ恩ヲ報セント思テ國主一切衆生ニ令告知也。(秋元) 自昔至今王法奉作敵者何者安穩哉。○近ハ我朝代始人王八十餘代之間。大山王子。大石。小丸ヲ爲始。二十餘人王法奉爲敵。一人トシテ素懷ヲ遂者ナシ。皆頸ヲ獄門ニ被懸。骸ヲ暴於山野。關東ノ武士等。或源平。或高家等。奉捨先祖相傳君伊豆國ノ爲民義時ガ下知ニ隨フ故カ。ル災難ハ出來也。(承久御書)

小蒙古人寄來大日本國之事。我門弟並檀那等中。若向他人將又自不可及。

言語若違背此旨可離門弟等由所存知也。以此旨可示人人候也。弘安

四年^{大藏}辛巳六月十六日 人人御中 (小蒙古御書)

大願ヲ立ン。日本國ノ位ヲユヅラン法華經ヲステ、觀經等ニツイテ後生ヲ期セヨ。父母ノ頸ヲ刎ン念佛申サズバナンドノ種種ノ大難出來ストモ。智者ニ我義ヤアラレズハ用イジトナリ。其外ノ大難風ノ前ノ塵ナルヘシ。我日本ノ柱トナラン。我日本ノ眼目トナラン。我日本ノ大船トナラシ等ト。チカヒシ願ヤアルベカラズ。(開目抄)

民ガ家ニ生レタルモノ我ハ侍ト齊シナント申セバ。必ズトガ來ルマシテ我國王ニ齊シマシテ勝リナント申セハ。我身ノトガト成ルノミナラズ。父ト申シ妻子ト云。必損スル事大火ノ宅ヲ燒キ大木ノ倒ル。時。小木等ノ損スルガ如シ。(上野殿御返事)

我國ノ爲ニ大事ニ成ルベキ事ヲ。少モ勘ヘタガヘヌガ智者ニテハ候也。○一切ノ大事ノ中ニ。國ノ亡アルガ第一ノ大事ニテ候也。(西山抄)

先此國ノ大王ヲ敬テ。後ニ他國ノ王ヲ敬フベシ。(善無畏抄)
國主等ノ崩去シ給ヘルヲ生身ノ如ク崇メ給フ。是又國主國人ノ父母也。
主君也。師匠也。片時モ背カバ國安穩ナルベカラズ。之ヲ崇ムレバ三災ヲ消
シ七難ヲ拂ヒ。人ハ病ナク長壽ヲ持チ。後生ニハ人天三乘佛ニ成ベシ。

〔神國王書〕

我主ノ而モ智者ニテ御坐サンヲ。他國ノ王ニ替テ思ヒ。日本國ニ住ミナ
ガラ。漢土高麗ノ王ヲ重シテ日本國ノ王ニオロソカナランヲバ。此國ノ
大王ヲイミシト申シテヤ。(彌三郎殿御返事)

國々ノ民ノ身トシテ天子ノ徳ヲ奪取ス。下尅上背。上高下破。下亂等是也。
設ヒ何カニ世間ヲ治メント思フ志アリト。モ國モ亂レ人モ亡ヌベシ。

〔内房女房御返事〕

内典五千七千ノ多モ。外典三千餘卷ノ廣モ。只主君ノ命ニ隨ヒ父母ノ義
ニ叶フガ肝心也。(聖愚問答抄)

日蓮ハ明日佐渡國ヘマカルナリ。今夜ノサムキニ付テモ。牢ノウチノア
リサマ。思ヤラレテイタハシクコソ候ヘ。アハレ殿ハ法華經一部色心二
法共ニアソバシタル御身ナレバ。父母六親一切衆生ヲタスケ給ベキ御
身也。法華經ヲ餘人ノヨミ候ハ。口バカリコトババカリハヨメドモ心ハ
ヨマズ。心ハヨメドモ身ニヨマズ。色心二法共ニアソバサレタルコソ貴
ク候ヘ。天諸童子以爲給使刀杖不加毒不能害ト。説レテ候ヘ。別事ハア
ルベカラズ。籠ヲバシ出サセ給候ハ。疾トクキタリ給ヘ。見タテマツリ。
ミ、エタテマツラン。恐恐謹言。

文永八年辛未十月九日

日蓮

筑後殿

〔玉牢御書〕

去文永八年辛未九月十二日ノ夜ハ。相模國龍口ニシテ切ベカリシガ。イ
カニシテヤアリケン。其夜ハノヒテ依智トイフ所ヘツキヌ。又十三日ノ
夜ハユリタリト。ド、メキシガ。又イカニニヤアリケン。佐渡國マデユク。

今日切、明日切、トイヒシホドニ四箇年トイフニ、結句ハ去、文永十一年太
 歲甲戌二月ノ十四日ニユリテ同三月二十六日ニ鎌倉へ入、同四月ノ八
 日平左衛門尉ニ見參シテヤウヤウノ事申タリシ中ニ、今年ハ蒙古ハ一
 定ヨスベシト申ヌ。同五月ノ十二日ニ鎌倉ヲイデ、此山ニ入レリ。此ハ
 偏ニ父母ノ恩、師匠ノ恩、三寶ノ恩、國ノ恩ヲ報センガタメニ、身ヲヤブリ
 命ヲスツレドモ、ヤブレザレバサテコソ候へ。(報恩抄)
 日蓮ガ慈悲廣大ナラバ、南無妙法蓮華經ハ萬年ノ外未來マデモ流布ス
 へシ。日本國ノ一切衆生ノ盲目ヲヒラケル功德アリ。無間地獄ノ道ヲフ
 サギヌ。此功德ハ傳教天台ニモコエ龍樹迦葉ニモスグレタリ。極樂百年
 ノ修行ハ穢土一日ノ功ニ及バズ。正像二千年ノ弘通ハ末法ノ一時ニ劣
 ルカ。此偏ニ日蓮ガ智ノカシコキニハアラス。時ノシカラシムル耳。春ハ
 花サキ、秋ハ果ナル。夏ハアタカニ。冬ハツノタシ。時ノシカラシムルニ
 アラズヤ。(報恩抄)

順佛記、勘之、既相當、後五百歲、始佛法必可出自東土、日本也。(順佛未來記)
 天竺國ヲ月氏ト申ハ佛ノ出現シ給ヘキ名也。扶桑國ヲ日本國ト申登
 ニ聖人出給ハサランヤ。月ハ西ヨリ東へ向へリ。月氏ノ佛法ノ東へ移ル
 へキ瑞相也。日ハ東ヨリ西へ入ル。日本國ノ佛法ノ月氏へ還ルへキ瑞相
 也。(練曉八幡抄)

凡ソ身體八處ヲ父母ニウケ、撫育慈愛ヲ厚ク蒙ル身ノ。親ノ菩提ヲハ祈
 ラズ、刹へ種々ノ惡業ヲ造テ亡者ノ苦ヲ添ン事、返返、淺間敷事ナルベシ。
 是レ豈ニ酉夢ガ父ヲ打チ、姪、姉、母ヲ害シ罪ニ劣ランヤ。必シモ天雷其
 ノ身ヲ割キ靈蛇其命ヲ吸ニ非ズトモ。後報何フ免レンヤ。サレバ孝行ヲ
 先トシテ追善ヲ致スベシ。唐ニ叔雄ト云者ハ身ヲ投テ孝養ヲ致シキ。ソ
 レマデコソナクトモ信心ノ歩ヲハコヒ、何フ彼ノ菩提ヲ祈ラザランヤ。
 孟宗カ雪ノ中ノ筍ヲ祥ガ冰ノ上ノ魚、是ハ孝ノ志ヲ感スルトコロナリ。
 況ヤ孝養ヲ致ス家ニハ梵天帝釋四大天王住シ給フト云へリ。是ハ正ク

如來ノ金言也。誰カ是ヲ疑ンヤ。然レバ如此輩ハ皆諸天ノ擁護ヲ蒙ル者也。但シ孝養ニ三種アリ。衣食ヲ施スヲ下品トシ。父母ノ意ニ違ハザルヲ中品トシ。功德ヲ回向スルヲ上品トス。存生ノ父母ニタニ尙功德ヲ回向スルヲ上品トス。況ヤ亡親ニヲイテヲヤ。雪中ノ筭カシ何カセン。法喜禪悅食ノ味ニハシカシ。叔雄身ヲ投テモ更ニ出離生死ノ便リニハナラス。只善根ヲ修シテ父母ノ得脱ヲ祈ルベシ。(十王讚嘆抄)

外典三千餘卷。所詮ニアリ。所謂忠ト孝トナリ。忠モ又孝ノ家ヨリ出タリ。孝ト申ハ高也。天タカケレドモ孝ヨリハタカカラズ。又孝者厚也。地アツケレドモ孝ヨリハアツカラズ。聖賢ノ二類ハ孝ノ家ヨリ出タリ。何況ヤ佛法ヲ學セン人知恩報恩ナカルベシヤ。佛弟子ハ必四恩ヲ知テ知恩報恩ヲイタスベシ。(開目抄)

儒宗ノ孝養ハ今生ニカギル。未來ノ父母ヲ救ハザレバ外宗ノ聖賢ハ有名無實ナリ。外道ハ過未ヲシレドモ父母ヲ扶ル道ナシ。佛道コソ父母ノ後

世ヲ扶レバ聖賢ノ名ハアルベケレ。而レドモ法華已前等ノ大小乗ノ經宗ハ自身ノ得道猶カナヒガタシ。何況ヤ父母ヲヤ。但文ノミアテ義ナシ。今法華經ノ時コソ女人成佛ノ時悲母ノ成佛顯ハレ。遠多惡人成佛ノ時慈父ノ成佛顯ルレ。此、經、內典ノ孝經ナリ。(開目抄)

李如暹歎云。進不得見涼源之本鄉。退不得逢胡地。妻子云云。心ハ胡地ノ妻子ヲ捨テ。唐ノ古ノ栖スミカヲモ不見。アラヌ。國ニ流サレタリト歎ク也。我身ニハ大忠アリシカドモカ、ル歎ナガサアリ。日遠モ亦如此。日本國ヲ助ハヤト思心ニ申出ス程ニ我生レシ國ヲモセカレ。又流サレシ國ヲモ離レテ此深山ニ籠コヨテ候ガ。彼李如暹ニ似テ候也。但本鄉ニモ流サレシ處ニモ。妻子ナケレバ歎事ハヨモアラシ。唯父母ノ墓トナレシ人人ノイカハナルラント。

覺東チシトモ無申計。(妙法尼御返事)

アマノリ一袋送リ給。畢。又大尼御前ヨリアマノリ畏入カシユ候。此所ヲハ身延ノ嶺ト申ス。駿河ノ國ハ南ニアタリ。彼國ノ浮島ガ原ノ際ヨリ此、甲斐、國

波木井ノ郷身延ノ嶺へハ百餘里ニ及フ。○古郷ノ事遙ニ思ヒ忘テ候ヒ
ツルガ。今此アマノリヲ見候テヨシナキ心思出テウクツラシ。片海市河。
コミナト。ノ磯ノ邊リニテ昔シ見シアマノリナリ。色形味モカハラザル
カナド。我カ父母替ラセ給ヒケント。カタチガヘナル。ウラメシサニ。涙モ押
へ難シ。(新尼御前御返事)

心地觀經ニ孝養ノ本ヲ説給フニハ。棄恩入無爲眞實報恩者等云云。言心ハ
實ノ道ニ入ニハ。父母ノ心ニ隨ハズシテ家ヲ出テ佛ニナルガ實ノ恩ヲ
報スルニテハ有也。世間ノ法ニモ父母ノ謀叛ナンドヲ起スニハ隨ハヌ
ガ孝養ト見エテ候。孝經ト申ス外典ノ經エ見エテ候。(兄弟抄)
但シ至本國今一度父母ノ墓ヲモ見ント思ヘトモ。著錦故郷へハ還レト
云事内外ノ掟也。指セル面目モ無シテ本國へ到リナハ。不孝ノ者ニテヤ
有ンズラン。是程ノ難アリシ事ダニモ破レテ鎌倉へ還入ル身ナレハ。又
錦ヲ著ル篇モヤ有ンズラン。其時父母ノ墓ヲモ見ヨカシト。深ク思シ故

ニ于今本國へハ到ラチドモ。サスガ戀シクテ。吹風立。雲マデモ東ノ方ト
申セバ。庵ヲ出テ身ニ觸レ庭ニ立テ見ル也。(光日房御書)

懷胎ノヨシ承候畢。ソレニツイテハ符ノ事仰候。日蓮相承ノ中ヨリ撰シ
出シ候。能。能。信心アルベク候。タトへバ秘樂ナレドモ毒入。ヌレハ藥用ス
クナシ。ツルギナレドモワルビレ人。爲ニハ何カセン。就中夫婦共ニ法華
ノ持者也。法華經流布アルベキタチヲツグ所ノ王子出生アラン目出度
覺候。色心ニ法ヲツグ人也。爭カヲソナハリ候ベキ。トクトクソウマレ
候ハノ。此藥ノマセ給ハバ疑ナカルベキ也。(四條金吾女房御返事)
法華經ヲ持奉ヨリ外遊樂ハナシ。現世安穩後生善處トハ是ナリ。タダ世
間ノ留難來ルトモ。トリアヘ給ベカラズ。賢人聖人モ此事ハノガレズ。タ
メ女房ト酒ウチノミテ。南無妙法蓮華經トトナヘ給へ。苦ヲハ苦トサト
リ。樂ヲハ樂トヒラキ。苦樂トモニ思ヒ合。南無妙法蓮華經トウチトナヘキ
サセ給へ。コレアニ自受法樂ニアラズヤ。(四條金吾殿御返事)

先ニ我が父母ヲ孝シ。後ニ他人ノ父母ニハ及ボスベシ。(善無畏抄)
 假令強言ナレドモ人ヲタスクレバ實語トナルベシ。設ヒ輕語ナレドモ
 人ヲ損スルハ妄語強言也。(善無畏抄)
 一切善根ノ中ニハ孝養父母第一ニテ候。(窪尼御書)
 佛ハ法華經ヲサトラセ給ヒテ。六道四生ノ父母ノ孝養ノ功德ヲ身ニソ
 ナヘ給フ。此佛ノ功德ヲ法華經ヲ信シタル人ニ讓リ給フ。例セバ母ノ
 食スルモノハ乳ト成テ赤子ヲ養育スルガ如シ。(烏龍遠龍御書)
 我身ハ天ヨリモフラス地ヨリモ出ヅ。父母ノ肉身ヲ分ケタル身ナリ。我
 身ヲ損スルハ父母ノ身ヲ損スル也。此道理ヲ辨テ親ノ命ニ隨フヲ孝行
 ト云。親ノ命ニ背クヲ不孝ト申也。(出家功德御書)

明治三十五年四月十八日印刷
 明治三十五年四月廿五日發行

(非賣品)

編輯兼發行人

川合芳次郎

東京市芝區二本橋二丁目五十二番地

發行所

開宗紀念大會事務所

東京市日本橋區小傳馬町二十二番地

印刷人

坂木豊彦

東京市芝區二本橋本町十二番地

印刷所

合資會社愛善社

東京市神田區小川町一番地

川合妙鏡居士編

二十八宿

一部 金七錢

川合妙鏡居士編

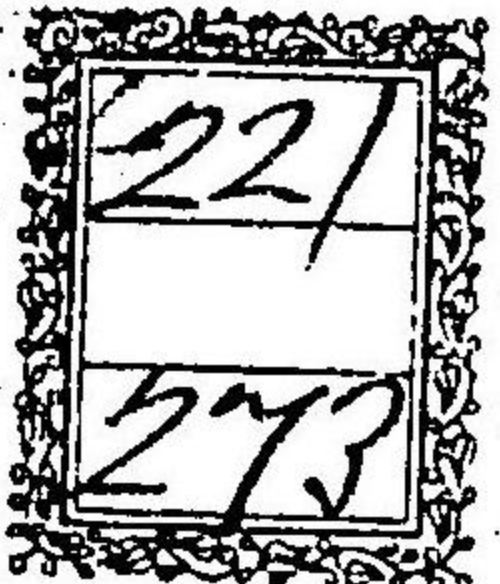
佛敎略誌

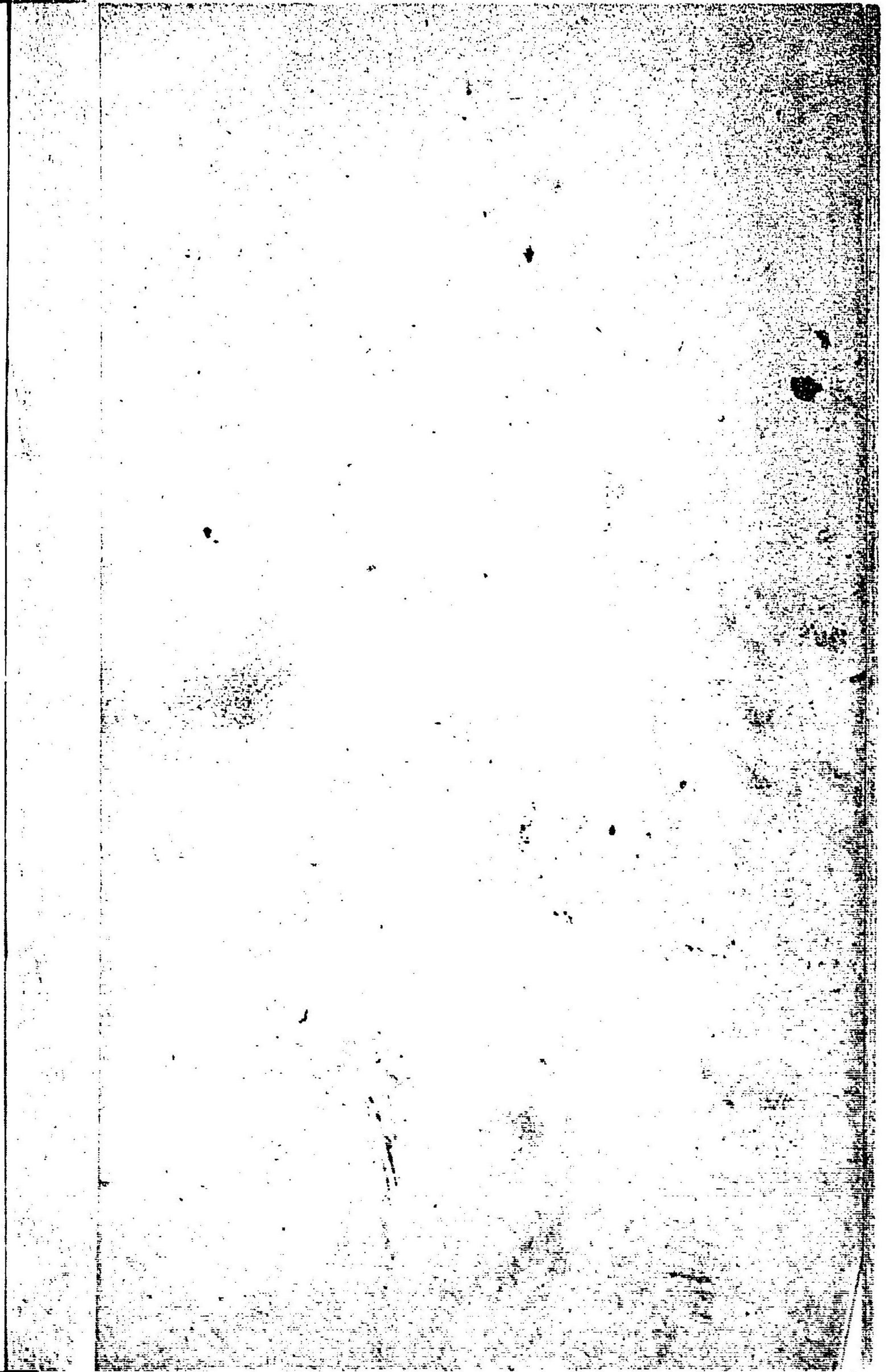
一部 金二十錢

東京市日本橋區通二丁目一番地

須原屋

北畠茂兵衛





70

特55

264

聖語鈔

国立国会図書館

019969-000-9

特55-264

聖語鈔

川合 芳次郎/編

M35.4

ABH-0123

